

## V O I C E

障登 P T 山下 宣郎（大阪たつの子勤労者山岳会）

### デフリンピック

今年9月にオーストリアで開催される国際ろう者スポーツ委員会の総会で、東京が2025年の夏季デフリンピックの開催地に正式決定しました。

デフリンピック（Deaflympics）とは、「Deaf」は英語で「きこえない人」という意味です。ろう者（Deaf）とオリンピック（Olympics）を合わせた造語で、「ろう者の五輪」、「聴覚障害の五輪」とよばれています。

オリンピックとパラリンピックと同じように4年1度、夏季大会と冬季大会が2年ごとに交互に開催されます。

競技ルールはオリンピックと同じルールですが、きこえない選手のための視覚的保障がなされた協議環境があることが、デフリンピックの特徴です。

視覚的保障って何？と思う人が多いかもしれません、ここで解説します。

音や審判の合図がきこえないという、競技上、選手にとって不利な状況を、視覚的に補うことです。

きこえない選手はスタートの音や審判の笛がきこえないために、プレーする上で、大きなハンデとなってしまいます。そのためフラッシュランプや旗などで競技上に必要な音声や審判の合図を知らせるなど、視覚的に情報が保障された競技環境が必要になります。

競技種目はオリンピックのようには及びませんが、世界共通の人気スポーツ（例えば、陸上、水泳、サッカー、バレーボール、バスケットボールなど）がほとんどメインで、20競技があるようです。

デフリンピックの歴史が古く、夏季大会の第1回は1924年（大正13年）にフランスで、冬季大会は1949年（昭和24年）オーストリアで開催されました。ちなみに2025年に東京で開催される夏季大会は25回目の開催です。1960年に第1回夏季大会が開かれたパラリンピックよりも歴史は古いですが、世界的に「デフリンピック」の認知度はとても低いです。そのため、きこえない選手やスタッフは世界大会への出場や練習などの資金繰りに苦労し、練習やデフリンピックに参加する際に職場の理解が得られず休暇を取得しにくく、といった苦しい立場に置かれているようです。

皆さん、ぜひデフリンピックを応援してあげてください。



『デフリンピックマーク』  
「平穏無穢」「ろう文化」「結束と継続」といった  
強いメッセージを表現しています。  
またロゴマークの中央は「手」を表し、  
ろう者が複数中心の生活を営んでいることを  
示しています。

### 山の仲間たちに感謝・・・

障登 P Tをたちあげて5年目でまだまだ道半ばではあります、ここまでに歩んでこられたのは、周りから多くの方たちにご支援をいただいたおかげです。この場をお借りして改めて感謝を申し上げます。

これからも、さらなる安心安全で、楽しく登山ができるように、さまざまな課題に取り組んでまいります。

引き続きご協力とご指導をよろしくお願ひします。

☆今後の障登 P T計画☆

#### 2022年度 手話で学ぶ登山初級教室

第6回 11月 8日 読図座学

第7回 11月13日 読図実技

第8回 1月22日 雪山登山講座（実技）

第9回 2月 5日 雪山入門ハイキング



☆右記QRコードよりアクセスしてWEBで開催要項を確認の上、お申込みください。

以上

注釈）障登 P Tとは「障がい者の登山学校参加に向けてのプロジェクト会議」の略称